

少年消防クラブニュース

発行/ 財団法人 日本防火協会
 〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-16
 (日本消防会館内)
 TEL 03(3591)7121
 FAX 03(3591)7130
 http://www.n-bouka.or.jp
 (季刊・年4回発行)

印刷/株式会社 近代消防社

少年消防クラブ指導者研修会

の開催概要について

少年消防クラブ活性化推進会議

少年消防クラブ活性化推進会議(委員長:秋本敏文(財)日本防火協会・(財)日本消防協会理事長)では、去る6月19日(土)と20日(日)の2日間にわたって、全国55のモデル少年消防クラブの指導者を対象とした「少年消防クラブ指導者研修会」(52クラブからのべ55名が参加)を東京都内で開催しましたので、その概要を報告します。

1 1日目ー意見交換会の概要

秋本敏文理事長の主催者代表挨拶、総務省消防庁横田真二防災課長の来賓挨拶の後、意見交換会に入りました。その概要は次のとおりです。

(1) 指導経験者2名による基調講演①

たつの少年消防クラブ指導者の河原雄一郎氏と芝消防少年団指導者の辻田雅明氏から、それぞれのクラブの活動状況等についてご紹介いただきました。

(2) 「クラブ運営上の課題」



意見交換会

- 団員の確保について
 - ・ 少子化で子ども自体が減る
 - ・ 中学校進学により脱退する団員が多い
 - ・ 野球やサッカーの少年団との奪い合い
- 指導者の確保について
 - ・ 大人の数も減っており、指導者確保が困難
 - ・ 高齢化によりキャンパな

- 安全管理について
 - ・ クラブ活動の行き帰りに団員が事故にあった場合の責任
- 活動・行事のマンネリ化について
 - ・ いつも同じ行事になってしまっている
 - ・ キャンプファイヤーやバーベキューなどのイベントを行っているが、新しい工夫ができていない



D級ポンプ放水訓練

- 活動自体のマンネリ化について
 - ・ 植樹活動、制服を着用しての活動など特色ある活動の創出
 - ・ 他のクラブとの合同訓練や研修の実施
 - ・ アンケート調査などで活動内容等について団員の



芝消防少年団

少年消防クラブ活性化推進会議では、本研修会の成果も踏まえながら、これからは積極的な支援に取り組んでまいります。



実技訓練に勢揃い

調講演② 日野消防少年団指導者の古橋一晃氏と相島少年消防クラブ指導者の井ノ上光晴氏から、それぞれのクラブの活動状況等についてご紹介いただきました。

- 指導者の確保等について
 - ・ 消防団員に指導をお願いする
 - ・ 指導者研修会を行い、教える技術を磨く
 - ・ 高齢の方には準指導者としてアドバイザーをもらい、世代交代を図っている事例がある
- 安全管理について
 - ・ 団員の中で下級生を指導できるよう上級生を育てる

ここで提起された、クラブ運営上の課題を踏まえ、主なクラブ活性化方策等は次のとおりです。

- 団員の確保について
 - ・ PRが重要。例えば、学校と連携し、学校の消防訓練、濃煙体験、工作車体験などを消防団員中心に行う、制服・キャップ・活動服などで視覚的に訴える、消防署の見学を行うなど、活動を実際に見て知る機会を設けることが大切
 - ・ 団員の年齢枠を広げた上で、年齢に応じた活動をしていくことが必要
 - ・ 広報活動、情報発信が大切。例えば、地域のコミュニティセンターへの活動事例の掲示、テレビ報道の活用、パンフレットや広報紙作成など
 - ・ 体験入団の実施
 - ・ 保護者の理解を得る努力を続ける必要
 - ・ 小学校3年生以上は全員参加という暗黙の了解がある地域もある
 - ・ 地域の世話役とつながりを持ち、働きかけてもらう

2 2日目ー実技指導研修会

2日目は東京消防庁消防学校において、同行のご協力により実技指導研修会を行いました。その概要は次のとおりです。

(1) 芝消防少年団員の訓練見学

芝消防少年団のご協力により、同少年団員10名による規律訓練の様子を見学しました。

(2) 研修参加者による実技訓練(規律、結索、ポンプ操)

3班に分かれて、規律訓練、ロープ結索訓練及びD1級軽可搬式ポンプの操法訓練を行いました。

(3) 芝消防少年団の訓練見学

芝消防少年団のご協力により、同少年団員10名による規律訓練の様子を見学しました。

3班に分かれて、規律訓練、ロープ結索訓練及びD1級軽可搬式ポンプの操法訓練を行いました。以上で、2日間にわたる研修を終了しました。初めての試みであり、参加者には戸惑いもあったと思いますが、終了後のアンケート結果を見る限り概ね好意的な評価をいただいたようです。少なくとも、モデル少年消防クラブで指導に当たる皆さん方の間で、活動上の課題や活性化方策などについて認識や情報の共有を図り、各クラブの今後の活動の充実につなげていくという、本研修会の目的は達成できたのではないかと考えています。

指導者研修会に参加して

参加された4名の方から感想をお寄せいただきました。

指導者の情報交換が必要

青森県五戸高校少年消防クラブ 川崎 由希子



全国からの少年消防クラブの指導員の方々と、1泊2日の研修会を開いていただき、大変有意義な日を過ごしてまいりました。

私たちが五戸高校少年消防クラブは、今年4月に立ち上がったばかりで、全くのスタート地点。皆さんから出された問題点、悩み工夫など興味深い研修でした。

最初は小学生を中心に活動されている所が多く我が五戸町とは違い小さいうちからの活動に感じしておりました。

しかし、研修が進むにつれ、中学になると離れていく子が多いと言う事、はたまた防火協会としては、できれば中高生以上で組織してほしいんだという事を感じてきました。

高齢化社会、また、消防団員の減少する中、多様化する災害時にいかに対処すべきか、子どもたちにも、日ごろから防災について、また災害時の対応についてふれる機会をより多くもたせる必要性があるということ……。

私は女性消防団員です。現在、高校消防クラブへは、女性団員が消防職員の協力を得

て、指導しています。規律訓練、普通救命指導、を行い、現在は軽可搬ポンプ操法の指導を行っております。高校生ともなれば、大人と変わりません。自分から望んで入った子たちなので、みんな熱意を持ってやってくれます。

ただ、問題なのは子どもたちが結構忙しいと言う事です。これは研修会でも悩みとして

今後の活動に活かしたい

福島県田村市立大越中学校消防クラブ 目黒 堂真



今回の研修では、中学校の消防クラブの活動に役立てられそうなことはないかという気持ちで参加させていただきました。

実技研修では、ロープやD級ポンプなどを実際に扱った訓練を行いました。消火器やAEDは校内の訓練や講習で扱ったことがありましたが、D級ポンプについてはこの訓練での使用が初めてでした。勢いはとても強く、予想以上に水圧に押し戻される感覚がありました。複数での訓練になるため、互いに大きな声で連携を取る必要があると感じました。ロープ結束訓練では、本結びや巻き結びなどを練習しました。結び方を覚える

出されていたことでした。その中参加してくれる事に私たちは心えなくてはなりません。限られた時間内に、何をどう教えていけば良いのか、指導内容の取捨選択を迫られてきます。その為には、今回のような同じ立場からの情報意見交換や、協会からの情報提供(例えばドイツの子どもたち)の必要な事であり、更にまたこのような研修会が開催されてこそ、有意義な少年消防クラブの発展に繋がる事だと思います。世界から注目されるクラブになる様、微力ながら私達も努力させていただきます。

られることは別であることを学びました。規律訓練では団体行動の大切さについて学びました。一人ひとりが勝手な行動をとることなく、一糸乱れぬ行動を取ることで、危険回避の可能性を高められることを学びました。

また、今回の研修で学校にとって一番のお土産となったのが、「チャレンジ防災48」でした。中学校では学級活動の時間が年に数十時間あります。その中で防災安全に関する授業も行いますが、具体的にどのような指導が効果的なのか分からないでいました。「チャレンジ防災48」にはそのまま使用できるワークシートや指導上の留意点などがあり、今後の学級活動が充実したものになりそうです。

今回の指導者研修会で学んだことを今後の消防クラブの活動に活かしていきたいと思えます。

高校生として役に立ちたい

東京都秋川消防少年団 嶋田 康平



今回の指導者研修会に参加して、最初は研修会と聞いて、実技を中心にするのかと思いましたが、1日目は討論会でした。「本当に研修会？」と思ってしまうました。しかし実際討論会が始まると「やはり研修会だ」と思いました。

討論会の際、予算不足や人員不足が数多くの少年団からあがっていました。予算不足は日本

車一台というのは無理だと思いが、実際の消防隊と一緒に活動したり、消防隊と同じ訓練をしたりすると楽しいと思えます。

継続性のある活動で意識の向上を

長崎県山崎少年消防クラブ 江口 正弘



2日目の、消防学校の実技訓練では、消防官に教えてもらったり、着衣泳法を見たりと、とても楽しかったです。

2日間という短い時間で、高校生として、とても勉強になりました。この経験をいろいろな場面で活かしたいと思えます。

2日目は、東京消防学校において、規律訓練、ロープ結束訓練等の実技訓練を行いました。2日間には指導者研修を終え、各地区の活動や意見を聞くことが出来ました。

また、実際の火災、災害の多くは第一報の迅速さによって被害を最小限に止めることができると思われ、低学年の子どもの場合、自分の活動経験を基に消火活動をするのではなく、周りの大人たちへ知らせることが大事ではないかと思えます。今後の活動の中でその様な指導も取り入れてはと考えます。

当クラブは、昨年の7月に欧州のチェコ(オストラバ)で開催された消防オリンピックにも出場することが出来、これまでにない活動を経験することが出来ました。今後もこれまでの活動を主に継続し、また新しい活動も取り入れて、これからの少年消防クラブを継続していきたいと思えます。

各地区の活動や意見を聴く中で、そのほとんどが体験重



モデル少年消防クラブ

創刊号に続き、12のモデル少年消防クラブを紹介いたします。なお、創刊号は日本防火協会のホームページからご覧いただけます。

岩手県(葛巻町) **小屋瀬** 少年消防クラブ

岩手の山懐、「ミルクとワインとクリーンエネルギーのまち」葛巻町は、もう一つおまけに消防の町として有名な町です。消防団のレベルは高く県大会は常連、近年は全国大会へ時折出場するなど岩手屈指の消防の町です。

そんな中、小屋瀬少年消防クラブは、昭和57年に結成し、以来28年間の長きにわたり活動を続けています。

す。実は、消防クラブの他に、森林愛護少年団や防犯少年隊も兼ねており、1年を通して充実した活動を展開しています。クラブ構成は、小学校4年生から中学校までの24名と指導者9名となっています。活動は春の消防演習参加から始まり、軽可搬ポンプ操法を毎年展示しています。

また、同じ時期に開催される地元小学校の運動会において、先生方や地域の皆様にも子どもたちの頑張りを見ていただいています。

今後は中学生主体のポンプ操法の取り組みや地元消防団と連携し火災予防活動などの取り組みとさらにクラブのグレードアップを図りたいと思います。日頃から大人の消防活動を目の当たりにして、時には疲れても弱音を吐かない子どもたちの勇姿を頼もしく見つけるこの頃です。

宮城県(気仙沼市) **階上中** 少年消防クラブ

平成21年11月13日(金)、階上中学校において総合防災訓練が行われました。本校では、平成17年より、総合的な学習の時間に防災学習を行っています。「私たちは未来の防災戦士」をテーマに、災害発生時に、自分たち中学生ができることは何かについて考え活動しています。「自助」「公助」「共助」を一つのサイクルとして1年ごとに実施し、未来の防災リーダーの育成





を目指しています。

平成21年度は「公助」でした。気仙沼消防署の協力のもと、「消火体験」「救急体験」「救助訓練」「濃煙体験」を行いました。小雨が降り、肌寒い天気でしたが、レスキュー隊のロープ降下訓練などを見学しました。また、緊急地震速報を活用した避難訓練も行いました。

今年度のテーマは「共助」です。地元自治会、婦人防火クラブ、消防団、地域住民等と協力して、11月15日に実施予定です。中学生が、「救出班」「救護班」「炊き出し班」「テント・トイレ班」「避難所班」の5つの班に分かれて活動します。活動の様子については、後日紹介したいと思います。



牛込消防少年団は、昭和53年に発足して以来、数多くの地域の防災リーダーを輩出してきました。

現在、団員42名、指導者10名で、団員の中には、韓国学校の生徒さんも10名在籍しており、国境を越えた団員同士の交流が見受けら

れ、国際色豊かに元気に活動をしております。

牛込地区は、新宿区の北東部に位置しており、箱根山という23区で最高峰となる山があります。

そして昔ながらの古い住宅が密集しており、それらに囲まれるように牛込城址、筑土八幡神社、市谷亀ヶ岡八幡宮、林氏墓地及び神楽坂毘沙門天などの名所、旧跡の他、夏目漱石、尾崎紅葉、北原白秋などの明治の文豪ゆかりの地で有名な街です。

また、坪内逍遙、島崎藤村、松井須磨子などが活躍した近代演劇の発祥の地でもあります。

繁華街としては、神楽坂があり、今でも毘沙門天の縁日には、夜店が多く連なり、多くの人を集めています。これからもそんな由緒と伝統あふれる牛込の街を守るべく、常に高い志を持って、地域の防火防災の担い手として、活躍していきたいです。



三番町地区自治会連合会



少年少女防火クラブは、温暖な気候の静岡市街区のほぼ中央に位置する「静岡市番町小学校」の生徒を中心に、約120名のクラブ員で構成されています。

火思想の普及を目的として結成され、年間を通じていろいろな行事を実施しています。火災予防運動期間中には、消防機関や地域住民と一緒に地域防火パレードを実施しています。

また、静岡県、静岡市が主催する「防火ポスター審査会」には多数出展し、優秀な成績をおさめています。夏の花火教室は、実際に指導員と一緒に玩具花火の安全な遊び方を学ぶもので、楽しみのひとつになっています。

凍てつく寒さの年末には、元気いっぱい「火の用心!」が夜空に響きわたる「防火夜回り」を実施しています。

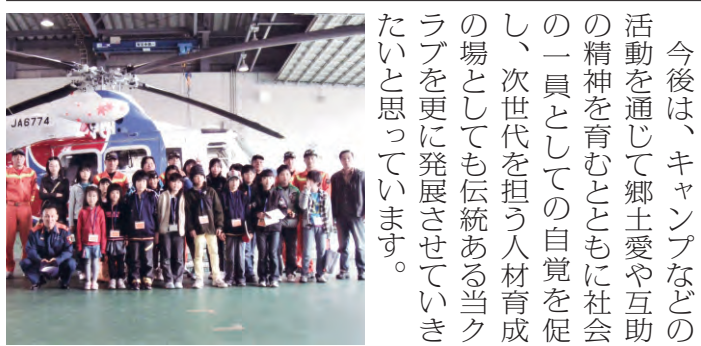


6区少年少女消防クラブは、三次市の中心部、十日市西地区の児童・生徒16

7名のメンバーで構成しています。当地区の多くは住宅地で、古くから居住されている家庭も多く、一体感や連携意識の強い地域です。一方、地盤が低いため洪水による被害を受けやすく、防災意識が高い地域です。このような中で、6区少年少女消防クラブは、平成5年2月の結成以来、地域住民への奉仕と住みよい環境づくりを活動のモットーとし、17年間にわたり地道な活動を進めています。

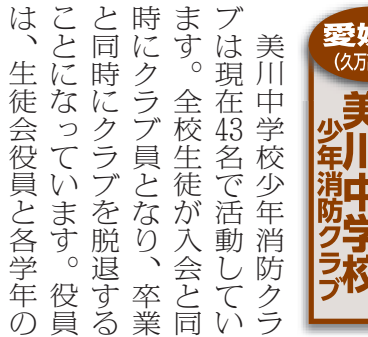
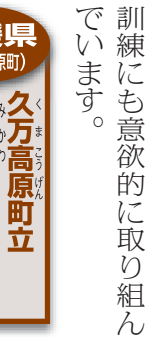
主な年間行事は、三次中央病院入院患者さんへのホタルの差し入れ激励、年末の餅つきとひとり暮らし高齢者の慰問、防火訓練と研修、防火・防犯夜回り、消防署主催パレード等の市民防火啓発活動への積極的な参加など、幅広い活動を行っています。

今後は、キャンプなどの活動を通じて郷土愛や互助の精神を育むとともに社会の一員としての自覚を促し、次世代を担う人材育成の場としても伝統あるクラブを更に発展させていきたいと思っています。



久万中学校は12年前に町内4つの中学校が統合してできた新しい中学校です。すべて地元の檜や杉材で造られた豪華な校舎や体育館は、我が中学校の自慢です。消防クラブの活動は、主に1年生60名が行っています。玄関を入るとすぐにある、吹き抜けの多目的スペース「一福堂」で、先日、少年消防クラブ員たちの救命講習会を、上浮穴消防署の署員をお招きして開催しました。本町は、標高500メートルの山間地域で、県下でも最も過疎化の進んだ地域です。いざお年寄りや家の方が倒れると、救急車を呼んでも到着するまでに時間がかかることから、居合わせた私たちの救命処置がとても大事だということを学びました。そのあと、グループに分かれてAEDの使用法を学びました。全員がAEDを使った救命法ができるようになりました。

久万中学校少年消防クラブでは、その他にも、地震や火災、不審者対応の避難

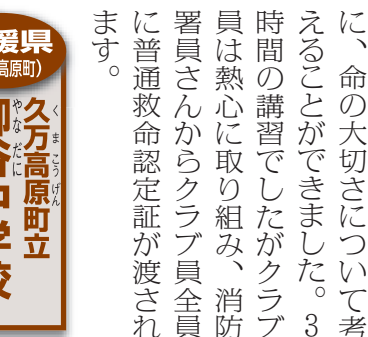
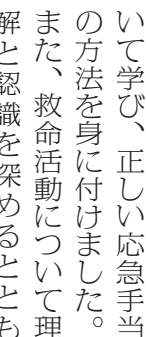


訓練にも意欲的に取り組んでいます。

美川中学校少年消防クラブは現在43名で活動しています。全校生徒が入会と同時にクラブ員となり、卒業と同時にクラブを脱退することになっています。役員は、生徒会役員と各学年の総務・人権委員男子、各学年保健委員が行います。クラブでは、火災予防に関する訓練、救急法の講習会を行い、防火・防災・救急に関する知識を身に付けることを目的としています。毎年、避難訓練や普通救命講習を消防署の方を講師に招いて実施しています。

また、冬休みには「我が家の防火点検」ということで、自分の家の防火点検をして、火災予防に努めています。このような訓練を通して、いざという時に落ち着いて行動できるように活動しています。

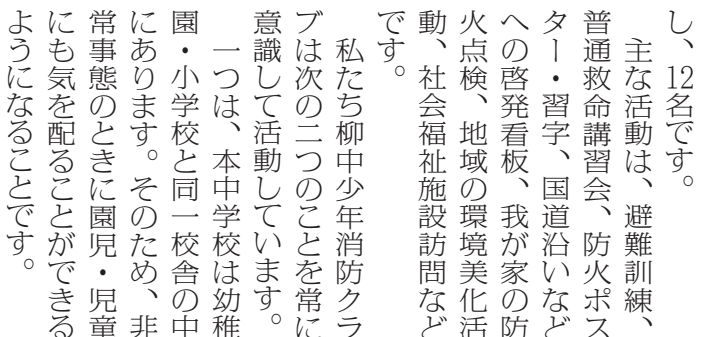
写真は、今年6月18日(金)にクラブ員・保護者・教職員を対象に実施した普通救命講習会の様子です。心肺蘇生法とAEDの使用について



私たちが町は高知県と愛媛県の県境の山間に位置しています。クラブ員は、柳谷中学校の全校生徒が加入し、12名です。

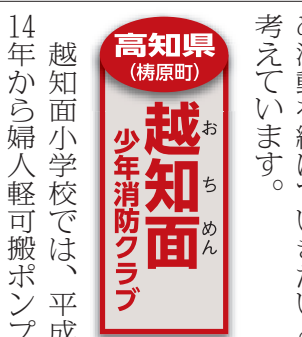
主な活動は、避難訓練、普通救命講習会、防火ポスター・習字、国道沿いなどへの啓発看板、我が家の防火点検、地域の環境美化活動、社会福祉施設訪問などです。

私たちが柳中少年消防クラブは次の二つのことを常に意識して活動しています。一つは、本中学校は幼稚園・小学校と同一校舎の中にあります。そのため、非常事態のときに園児・児童にも気を配ることができるようになることです。



もう一つは、3年ほど前から、全校生徒が寄宿舎生活を送っています。寄宿舎には、舎監(男性)1名と寄宿舎指導員(女性)1名のみです。非常の場合対応など自分を守ることはもちろん自分たちができることについての学習や訓練を定期的にを行うことです。

地元の消防署も大変協力的で、ていねいに指導していただいています。これからも、消防署や地域と協力して、防災についての知識の習得や技能の向上のため活動を続けていきたいと考えています。



越知面小学校では、平成14年から婦人軽可搬ポンプ操法を習得し9月に開催される運動会で保護者や地区の方々に披露しています。操法を練習するようになつた経過は、越知面小学校グラウンドで毎年6月から消防団員が小型ポンプ操法の練習を消防団連合演習に向けて開始します。練習には子ども連れで参加する団員も多く、小さい時から操法に対して興味のある子どもは父親の整列を真似していました。

また、平成9年の全国女性操法大会に地区の女性消防隊が出場した際、数ヶ月間の練習を子どもたちが見ており、操法を身近に感じている子どもが多かったこと

(4面に続く)

(3面から続き)

とで、「防火防災意識の高揚の一つに子どもたちに婦人軽可搬ポンプ操法を習得させてみては」と保護者でもある団員と女性消防隊員から意見があり、実施に至りました。

その後も毎年の運動会には5・6年生が操法要員となり披露を続けています。が、中学校の教員から「越知面小学校出身の学生は返事や姿勢そして生活態度が違う」と評価されています。子どもの火遊びを防ぎ、

火災予防思想の普及に役立てばと始めた婦人軽可搬ポンプ操法ですが、思わぬ効果を出す結果となっていました。やはり、小学生の時から協同で物事を行うことの重要性を認識する結果となりました。

将来は、消防団員・女性消防隊員に入団・入隊し操法を行う子どもたちが出てくることを期待しています。



高知県 (黒潮町) 上川口 少年消防クラブ

当クラブのベースとなる上川口子ども会は、管轄の上川口分団とともに年末警



戒を毎年行ってきたほか、分団長や消防署員の指導の下、学校での総合学習や地域内で独自の訓練を行うなど、継続して防災学習に取り組んできました。

特に現6年生は、自分たちで地域の海拔測量を行い、浸水危険箇所に自分たちが描いた海拔表示板や避難所案内板を設置するなど、地域への係りも展開してきた経過があります。

今回のモデル事業を契機に、「消防クラブ」として活動することで、これまでの学習を今後の自主的な活動につなぐことができるものと考えています。

鹿児島県 (伊佐市) 大口上中目丸 少年消防クラブ

私たちの少年消防クラブは、鹿児島県の最北にある伊佐市に昭和59年にクラブ員27名で発足したクラブです。熊本県と宮崎県の県境に位置する本市は、四季の移り変わりや寒暖の差が確か、空気と水の清らかさに秀でているまちです。その自然豊かなまちの中で、消防に親しむ機会を与え、防災に関する知識を吸収し、火災予防思想の普及を

図るとともに、健康で明るく規律・礼儀正しい少年少女の育成が当クラブの目的です。

現在は小学生8名、中学生2名の計10名と少人数ですが、積極的にいろいろな地域行事に参加し、火災予防の普及に努めています。

主な活動として、県消防学校で行う研修会への参加や年末には夜間警戒を実施しています。夜間警戒は毎年の恒例行事となっております。地元消防団の協力のもと、拍子木を打ち鳴らして地域住民に防火の呼びかけを行います。

これからもクラブ員と地域住民の防火意識の向上に取り組みむことを目標として頑張りたいと思います。



鹿児島県 (湧水町) 湧水町吉松 少年消防クラブ

「人と自然が織り成す芸術のまち、心豊かで伸びゆく美しいまち」湧水町は、鹿児島県の中央北端に位置し、周りを山脈に囲まれ、名水百選の丸池、疎水百選の竹中池があり、自然豊かで景観の美しい町です。私たちのクラブは、現在小学生19名、中学生8名、



高校生1名の幅広い年齢層の28名で昨年に発足、消防に関する知識を学び、火災予防思想の普及を図ると共に、健康で明るく規律・礼儀正しさを学ぶことを目的として活動しています。主な活動として、県消防学校主催の研修会への参加や、防火フェスタへの参加、地元消防団と拍子木を響かせて年末夜間警戒を行い、地域住民に対する火災予防や住宅用火災警報器の設置推進等の広報活動を行っています。今後は、地元の防災マップ作成や、応急手当の講習会等への参加を計画しています。

この度、モデル少年消防クラブの認定を受け、さらにクラブ員が一致団結し、様々な活動を体験しながら、防火意識の向上に努め、地域に貢献できる防火クラブを目指して頑張ります。



明日へつづく夢・宝くじ♪

宝くじの収益金は、子どもたちの遊び場をはじめとする街づくりなど、みなさまの暮らしに役立てられています。



(この遊具「アソヴェの森」(秋田市大森山動物園内)は、宝くじの普及宣伝事業として設置されたものです。)

当せんはしっかり調べて、しっかり換金。財団法人 日本宝くじ協会 http://www.jla-takarakuji.or.jp

●外国発行の宝くじを、日本国内において購入することは、法律で禁止されています。

